

研究機関名：名古屋工業大学、株式会社nana music、株式会社テクノスピーチ

研究の概要：音声合成などに代表される音声関連技術は、計算機性能の向上や機械学習の発達により、近年、大幅な進化を遂げている。それに伴い、音声データの量と質が重要であると考えられており、大規模なデータとそれを扱える技術基盤が必要になる。本研究では、1,500万件以上の大規模な波形データを用い、それを扱える技術を実現することで、次世代の音声関連技術を検討する。

期待される効果・目標：研究データ（音源）はシングルトラックの形で存在しており、音声認識技術、音声合成技術、話者適応技術などの研究に利用することができ、次世代の音声関連技術の基盤とすることが期待できる。

テストベッドの活用シーン

